

聖武天皇が即位したとき。

— 聖武天皇即位一三〇〇年記念 —

特別陳列

聖武天皇の大嘗祭木簡

奈良国立博物館
NARA NATIONAL MUSEUM

奈良文化財研究所
Nara National Research Institute for Cultural Properties

展示木簡
釈文集

*二〇二四 平城宮跡資料館秋期特別展
木簡は二期に分けて展示します。

第一期 一〇月二二日(火) — 十一月一七日(日)
第二期 十一月九日(火) — 十二月八日(日)
*奈良国立博物館 特別陳列「聖武天皇の大嘗祭木簡」
会期 一〇月二二日(火) — 十一月一日(月)

●：平城宮跡資料館第一期展示、●：平城宮跡資料館第二期展示、●：奈良国立博物館展示。

- 1 二人〔皇カ〕
太子□
524次・S010580 『平城木簡概報44』11頁中(30) ●
091 ●(31)
- 2 □十廷和銅七年十月□
104次・S08600 『平城木簡概報12』8頁下(22) ●
- 3 ・移請受陵倭□
和銅八年五月五日
112・20・5・033 ヒノキ科・柾目 ●
104次・S08600 『平城木簡概報12』12頁上(78) ●
- 4 ・哲多郡進出大嘗分荒炭一斛
十月十六日 石
315・22・5・033 マツ科以外の針葉樹・柾目 ●
- 5 佐〔波カ〕□郡大嘗贄押年魚□〔千カ〕百十隻
245・39・4・031 ヒノキ科・板目 ●
- 6 ・刑部郷三□〔峪カ〕里大嘗分
・苦一枚
148・21・4・033 ヒノキ科・板目 ●
- 7 ・□郡村社郷高負里大嘗分
・色人
(179)・27・3・039 スギ*・追柾目 ●
- 8 ・五連和五百嶋
・神龜元年八月廿二日
144・23・3・033 ヒノキ科・追柾目 ●
- 9 神御茵
(65)・14・5・039 ヒノキ科・板目 ●
- 10 神御茵
(80)・16・4・039 マツ科以外の針葉樹・板目 ●
- 11 ・堅魚五十六
・会
146・23・5・032 ヒノキ科・柾目 ●
- 12 ・字授和腊
・小堅魚腊
108・20・2・011 ヒノキ科・柾目 ●
- 13 荒堅魚卅連
69・22・2・032 ヒノキ科・柾目 ●
- 14 海藻六連
96・21・4・031 ヒノキ科・板目 ●
- 15 鳥賊八百隻
145・33・9・032 ヒノキ科・板目 ●
- 16 腊五□
(49)・16・5・039 ヒノキ科・板目 ●

- 17 安房国安房郡^{〔神餘カ〕}□□郷^{〔神カ〕}□□里^{〔神カ〕}□□輸鰻調陸斤 参拾貳条 養老七年十月
390-(16)-5 032 ヒノキ科・柾目 ●
- 18 千栗五斗 111-13-4 031 ヒノキ科・柾目 ●
- 19 意比腊一斗 大領 147-20-3 031 ヒノキ科・柾目 ●
- 20 千鰻五十連 166-16-3 032 ヒノキ科・板目 ●
- 21 生粟七斗 190-24-5 032 ヒノキ科・柾目 ●
- 22 田郡水流郷赤米
□ 龜元年九月十日 □ (95)-22-5 081 ヒノキ科・柾目 ●
- 23 濁酒卜 (17)-29-3 039 ヒノキ科・柾目 ●
- 24 備中国賀陽郡前 □ □ (38)-22-3 032 ヒノキ科・板目 ●
- 25 賀陽郡押栗一石 133-20-3 032 ヒノキ科・板目 ●
- 26 賀陽郡鮎年魚 173-18-8 032 スギ*・柾目 ●
- 27 備中国安賀郡梨六斗 189-19-6 032 ヒノキ科・柾目 ●
- 28 備中国安賀郡搗栗六斗 190-18-7 032 ヒノキ科・柾目 ●
- 29 備中国安賀郡蒜根三斗九升 204-25-5 051 ヒノキ科・板目 ●
- 30 備中国安賀郡
・赤精米一石 額田部 (24)-27-4 039 スギ*・追柾目 ●
- 31 都宇郡小麦一斛 190-18-7 031 ヒノキ科・板目 ●
- 32 都宇郡荏子四升 (94)-16-4 039 ヒノキ科・板目 ●
- 33 窪屋郡白猪里神人部持
・麻呂白米一石 164-27-3 031 ヒノキ科・板目 ●
- 34 進上櫃納調系六十絢 輕部郷系卅四絢
白髮部郷系廿六絢
・神龜元年十月十四日 □ □^{〔日カ〕} 215-34-9 032 ヒノキ科・追柾目 ●
- 35 間人郷餅米一石 234-26-5 033 ヒノキ科・板目 ●
- 36 浅口郡白米一石 151-28-3 033 ヒノキ科・板目 ●
- 37 備中国手田郡入 □^{〔水カ〕}里白米五斗 173-31-5 033 マツ科以外の針葉樹・板目 ●
- 38 哲多郡署預子五斗 126-14-5 032 ヒノキ科・柾目 ●
- 39 哲多郡梨子三斗 111-20-5 032 マツ科以外の針葉樹・柾目 ●
- 40 備中国下道郡秦郷直
・里下道臣名等麻呂庸^{六斗} 141-27-4 032 ヒノキ科・柾目 ●
- 41 備中国下道郡秦郷直見
・里下道臣名 □ 麻呂庸米六斗 □^{〔斗カ〕} (39)-24-5 032 ヒノキ科・柾目 ●
- 42 後 郡生粟一石 111-25-3 032 ヒノキ科・柾目 ●

43 遠太郡塩一百

顆

105-25-5 032 スギ*・板目 ●

44 備中国小田郡日下部郷白米一石

神龜元年九月

162-16-3 031 ヒノキ科・板目 ●

45

里工作高殿料短枝桁二枝

(261)・(22)・4 081 ヒノキ科・柱目 ●
97次・SX8411 『平城宮木簡七』11898号

46

西高殿四人

(137)・(11)・6 081 ヒノキ科・柱目 ●
97次・SX8411 『平城宮木簡七』11900号

47

造東高殿 [飛驒工カ]

(21)・(33)・3 081 ヒノキ科・柱目 ●
97次・SX8411 『平城宮木簡七』11899号

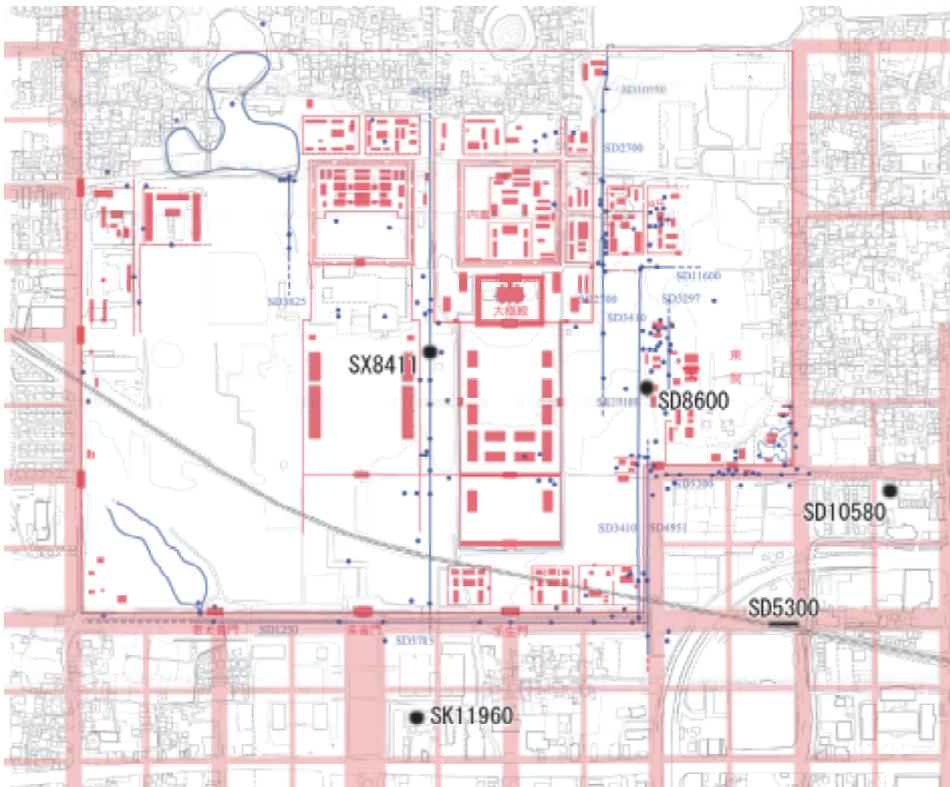
48

油二升一合 大殿常燈料 日別三合
油七合 文基息所燈料 七日料
油一升四合 天子大坐所燈料 日一合

油八合 膳所料 三日料
油六合 内坐所物備給燈料
合六升 召女暨息所燈料

[鉾X]
「影割下紙」
0七月内

360-80-15 061 ヒノキ科・板目 ●
204次・SD5300 『平城京木簡三』5005号



今回展示する木簡の出土地

地形図は奈良市発行 1/10,000 地形図（令和5年3月24日作成）を一部改変

【木簡が見つかった遺構】

SD一〇五八〇 (展示番号1)

平城京左京二条二坊十四坪・平城第五二四次調査(二〇一四年)調査区の下層で検出した、南北(最大)四・六m、深さ〇・六五mの東西方向の溝ないし土坑。調査区外東西に延びる。出土した削屑の多くは、人名、日付ないし時刻を示すとみられる十二支の記述が目立ち、「高殿下待舍人」によると、舍人の勤務管理などにかかわる木簡群とみられる。養老七年(七二二)や神亀元年(七二四)の削屑が含まれ、奈良時代前半に属する。木簡は四三五五点(うち削屑四二五三点)出土した。

SD八六〇〇 (展示番号2・3)

平城宮東院西辺部・平城第一〇四次調査(一九七七年)平城宮東院西辺部の、東一坊大路の延長部分にあたり、調査区の北東から南西にかけて斜行する幅約三m、深さ〇・六mの溝。約九二m分検出した。溝の両岸は、シガラミによる護岸を施す。木簡は溝埋土から一〇七点出土し、このほか溝廃絶後の灰白色粘土や建築部材片からも一八点出土した。紀年木簡はいずれも和銅年間(七〇八〜七一五)で、皇太子居所としての東院造営に際して埋め立てられたとみられる。

大土坑SK一一九六〇 (展示番号4〜44)

平城京左京三条一坊二坪・平城第六五八次調査(二〇二三〜二四年)調査区東北部で検出した東西約二・八m、南北約二・五m、深さ約一〇mの方形土坑。最下層に木片を中心とした有機物を敷き込み、その上に粘土を積んで埋め、さらにこれをもう一度掘り起こして再び最下層に粟皮・木の葉を主体とする有機物を敷き込み、粒度をあえて不均一に調整した土を積み、さらにこの土を掘り起こして砂層と粘土層を交互に積んで埋める。木簡は、有機物層から二六〇〇点(うち削屑二二五〇点)以上出土した(現在洗浄中)。

SX八四二一 (展示番号45〜47)

中央区朝堂院東北隅(第一次大極殿院東南隅)・平城第九七次調査(一九七六年)第一次大極殿院・中央区朝堂院の東辺を南流する平城宮の基幹排水路の一つ、SD三七一五に付設された堰状遺構で、一辺約四mの不整形を呈する。東第一堂北端の東に位置する。木簡は一三八点(うち削屑三四点)出土した。

SD五三〇〇 (展示番号48)

平城京左京二条二坊五坪二条大路・平城第二〇四次調査(一九八九年)麻呂邸)との間の二条大路路面の南北両端に掘られた濠状の遺構のうち、麻呂邸南門前から二条大路北端に沿って東に延びる遺構。幅二・七m、深さ一・一〜一・三m、総延長は約五八m。木簡は、約三万五千点(うち削屑約二万九千点)出土した。

※本解説シートでは、今回の展示にあたり再検討した結果、釈文を改めている場合があります。
出典のない木簡は、第六五八次調査出土。
都合により、予告なく一部展示替えをすることがあります。

(奈良文化財研究所歴史史料研究室)